



2020年11月13日

各位

会社名 株式会社ヒガシマル
 代表者 代表取締役社長 東 勤
 (コード番号 2058)
 問合せ先 執行役員管理部長 田之畑 武
 (TEL 099-273-3859)

2021年3月期第2四半期の業績予想と実績値との差異及び
 通期の業績予想の修正に関するお知らせ

2020年5月14日に公表しました2021年3月期の第2四半期業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向等を踏まえ、2021年3月期通期の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年3月期第2四半期業績予想と実績値との差異

2021年3月期第2四半期（累計）連結業績予想と実績値との差異（2020年4月1日～2020年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,760	百万円 203	百万円 215	百万円 86	円 銭 22.41
実績値(B)	6,032	△120	△82	△233	△60.11
増減額(B-A)	△727	△324	△297	△320	
増減率(%)	△10.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	6,311	55	119	△0	△0.03

2021年3月期第2四半期（累計）個別業績予想と実績値との差異（2020年4月1日～2020年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,484	百万円 233	百万円 294	百万円 191	円 銭 49.40
実績値(B)	3,994	224	356	239	61.71
増減額(B-A)	△490	△8	61	48	
増減率(%)	△10.9	△3.8	20.9	25.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	3,879	200	326	226	58.50

2. 2021年3月期通期業績予想の修正

2021年3月期通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,396	366	406	188	48.72
今回修正予想(B)	11,597	△197	△125	△301	△77.46
増減額(B-A)	△1,798	△564	△532	△490	
増減率(%)	△13.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	12,442	△210	△90	△449	△116.03

2021年3月期通期個別業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,511	324	449	292	75.33
今回修正予想(B)	7,309	124	325	211	54.34
増減額(B-A)	△1,201	△200	△124	△80	
増減率(%)	△14.1	△61.7	△27.6	△27.6	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	7,431	185	394	△236	△61.04

3. 業績予想と実績値との差異の理由

当第2四半期の連結業績につきましては、連結子会社において新型コロナウイルス感染拡大により各魚種の需要が継続して低迷するなど、当社グループの水産事業活動において大きな影響を受けております。また養殖事業における出荷制限や市場価格の下落による在庫の評価減等もあり、業績が悪化したことから、前回予想値を大幅に下回る結果となりました。

当第2四半期の個別業績につきましては、食品事業においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で内食需要の高まりから主力の乾麺類、即席めん類及び皿うどん類の販売が好調に推移しましたが、水産事業において、エビ飼料類は細菌感染症対策や新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、養殖の稚エビ導入尾数が抑制されたことなどにより、売上高は当初予想を大幅に下回りました。経常利益及び四半期純利益では食品事業における自社ブランドの販売増のほか、生産性向上への取り組みや経費削減に組み込み前回予想値を上回る結果となりました。

4. 通期の業績予想の修正の理由

連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により需要動向は流動的な要素もありますが、連結子会社における養殖生産及び鮮魚生産物の市場価格の現状を踏まえ下方修正いたしました。利益面では第2四半期までと同じく、生産性向上への取り組みや経費削減策等を引き続き継続してまいります。養殖生産物の在庫評価減等を考慮し下方修正しました。

個別業績予想につきましても、水産事業において新型コロナウイルス感染拡大や養殖環境における足元の業況悪化を踏まえ下方修正しました。

※上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上